

はじめに

人間科学部は1972年、日本で初めての学部として、文理融合、学際的、実践的な教育・研究を目指して、心理学、社会学、教育学を中心に発足し、その後つづいて、生命科学、工学、生物学、文化人類学などの分野を加えて、先端的な教育・研究を行ってきました。大学院は、学年進行に伴い、1976年に修士課程（博士前期課程）、1978年に博士課程（博士後期課程）が開設されました。さらに、2007年10月の大阪外国語大学との統合により、従来の人間科学専攻に加えて、国際協力や地域特性などを研究するグローバル人間学専攻を設置し、2専攻、9大講座に改組、充実しています。

さて、今回の外部評価は、2005年度の外部評価につづき、2006～2008年度部局自己評価報告書、中期計画暫定評価で作成した現況調査表（平成19、20年度分のデータも追記）、研究の動向（2006年度～2008年度）等の8点の資料および教員へのヒアリングを基に、高い見識をお持ちの10名の先生方をお願いいたしました。その結果、すでに前回評価と同様、いずれの研究分野も高い水準の学術活動を展開して、その成果を通じて学界や社会に寄与していると評価された一方、分野(講座)間、学系間の連携強化、学系内で全分野参画型のプロジェクトの立ち上げが望ましいこと等の貴重なご指摘をいただきました。広範な研究分野を抱えているという利点を活かした中長期的な研究プロジェクトの具体化に鋭意、努めていきたいと考えています。

最後になりましたが、さまざまなお仕事で多忙な日々を過ごされている中で、煩雑な資料を入念にご検討下さり、また、ヒアリングのためにご足労いただき、的確なご指摘と力強い激励の文をお寄せ下さった評価委員の先生方に心からお礼申し上げます。今回、いただきましたご提言を真摯に受け止め、今後とも人間科学の発展に邁進していく所存でございます。関係各位のご意見、ご批判を賜れば幸いに存じます。

2010年4月30日

大阪大学大学院人間科学研究科
研究科長 三浦 利章